

うだぢから

「うだぢから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」やNPO団体などを紹介します。
 問 政策推進課 ☎82・3910/IP☎88・9094

① 地域のまち協が特産品等をPR

～市内4まち協～
 10月26日・27日の「うだ産フェスタ2024」に、今年も市内4つのまち協がそれぞれ開発した特産品を販売しました。
 おおうだ南部地域まち協は、オリジナルブランドの「清流米」をはじめ、餅米などを販売しました。丹精込めて作られたお米は、毎年好評を得ています。



▲おおうだ南部地域まち協

大宇陀政始まち協は、カレーライスをはじめ、ポップコーン、綿菓子、コーヒーなど豊富なメニューを準備



▲大宇陀政始まち協

し、皆さんに喜んでいただけました。大王地区まち協は、精米する時にできる米糠を使用した焼き菓子を販売。毎年工夫をしながらフィナンシェやシフォンケーキなど種類を増やし、再度購入される方も年々増えてきています。



▲大王地区まち協

伊那佐地区まち協は、クレープ感覚で歩きながら食べられる「伊那佐焼き」を販売。手軽に食べられることから、多くの方が買い求めていました。生地の中に菊芋を混ぜ込んであるのが特徴です。

② 宇陀松山華小路を開催

～宇陀松山まち協～
 10月19日・20日に宇陀松山重伝建地域において榛原内牧産のダリアの花びら約1万2千本を並べ、町並みに彩を演出しました。また、19日夜には、県営うだ・アニマルパーク



▲伊那佐地区まち協

今回のうだ産フェスタは例年以上に多くの方が来られ、各まち協商品の良い宣伝になりました。今後も地域の特色を活かした特産品を開発していき、イベント等を通じて地域の活性化を図っていきます。



▲1万2千本のダリア

③ いなさの秋祭り

～伊那佐地区まち協～
 11月3日に八咫鳥神社において、『灯Mate2024』を開催しました。このイベントは、少子高齢化で住民のつながりが希薄になるな

小路がライトアップされると、いつもとは違うおもむきを映し出していました。これからも多くの方にお越しただけるよう継続的にイベントを開催していきます。

か、地域内の交流と活性化を目的に実施してきました。

神社の境内には竹の行燈が並べられ、夕暮れになった参道や境内をやさしく照らしました。また境内に並べた灯籠には榛原西小学校の児童が描いた絵や願いが浮かび上がり、訪れた方たちは、ハンドベルや女性パンドの演奏も併せて楽しんでいました。

演奏が終わる頃には、境内も夕闇に包まれ、地域の方たちが見守るなか、神社の鳥居の先に見える伊那佐山の上には大きな打ち上げ花火がいくつも上がり、秋の夜空に大きな光の花が広がりました。



▲綿菓子が一番人気



～ニッケイ～

ニッケイの葉や枝、根には芳香があり、かむと辛味もあります。芳香性健胃薬として食欲不振や消化不良などの外用薬として利用されます。ニッケイの樹皮は味が薄いので、味の強い根を利用します。と言っても、効果があるのは皮の部分ですから、細い根を集めて水洗いし、たいてい皮をはがして天日乾燥して保存します。

健胃、整腸、鎮痛、解熱、強壯作用を目的に根皮の粉末0.3～1gを1日3回に分けて飲んだり、1日に根皮4～8gを煎じて服用します。これで軽度の神経痛やリウマチ、関節痛にも効果があります。同様の痛みのあるときや、さらに五十肩や腰痛、アザには、乾燥した葉を布袋に入れ、風呂に入れて入浴すれば改善させることができます。



薬草道通(やくそうししょうよう) 毎回「薬草」に関わる内容を連載でお届けするコラムです。

※当市で「薬草活用講演会」をしていた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

問 商工業課 ☎82・5874 / IP☎88・9075